

強

三年

画数 11
筆順

コ 弘 弘 強 強
キ ヨ ウ ・ ゴ ウ
つよ 強い 力まる 力める
し 力いる

成り立ち



「弘」と「虫」とを組み合わせてつくった字です。かたいからをかぶった「弘」という名まえの虫」のことをあらわした字です。

かたいからをきているので「つよい」ということから「つよい」といういみにつかわれるようになりました。

「強くなる」ことを「強まる」といい、「強くする」ことを「強める」といいます。また、「強く」とも「強くすること」を「強いる」といいます。

「強は「弘虫」を一字にしたものであるが、弘の音が「硬」を表していて、「硬虫」の意である。しかし「強」が「つよい」の意に用いられたのは、「強」の仮借と見るのが本当かもしれない。」

使い方

- ▽にいはさんは、からだも強健だが、いしも強固です。
- ▽チームの強化を強引におこないました。
- ▽あの人は強情ですが、けっして強気ではなく、どちらかといえば、弱気のほうです。

熟語例

- ▽強気(気が強いこと。せっつきよくてきなこと。弱気)
- ▽強健(強く健やかなこと。体が健康で強いこと。)
- ▽強固(強く固いこと。強くしてしっかりしていること。)
- ▽強化(化は「変化」で、今までと変わって強くするということ。いみのことば。「強める」こと。)
- ▽強情(この「情」は「意地」のいみ。意地が強いこと。意地つぱり。じぶんのかんがえをどくまでとおそうとする気もちがつよいこと。)
- ▽強制(制は「きめる」。「強いてきめる」といういみ。あひ手のかんがえをむしして、一ぼうてきにきめること。「強いる」こと。)
- ▽強引(強いてじぶんのほうに引つぱりこむこと。むりをする。また、「じゃにむに」といういみ)

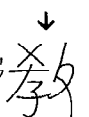
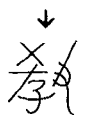
教

三年

画数 11
筆順

ナ ヲ ヌ ヲ 孝 教 教
キ ヨ ウ
おし 力える ・ おそ 力わる

成り立ち



「まじわる」ことをあらわした「交」(なまるとキヨウになる)「子」と、「子」という字と、手にむちをもったかたちの「父」を組み合わせでつくった字です。

「むちをもった手」は「せんせい」をあらわします。

「せんせいとせいと(子)が「まじわる」ことをあらわした字です。「おしえる」ことです。

また、「おしえ」のこともあります。

「今の字形では、「孝」と「父」との会意・形声字として教えることもできる。「親に孝行することを「おしえる」と「解くのである。」

使い方

- ▽おなじ教師がおなじように教えているのに、まなぶ人によって教育のこうかがちがうのはなぜでしょう。
- ▽先生になることを「教鞭をとる」といいます。先生は教えるのに、鞭をもつからです。

熟語例

- ▽教師(師は「先生」のこと。「教える先生」といういみのことばです。学校の先生)
- ▽教育(教えること。教え導くこと。)
- ▽教導(教えること。)
- ▽教諭(教えること。また、小・中・高校の先生のことを正式には「教諭」といいます。)
- ▽教鞭(教えるときにつかう鞭のこと。だから、「教鞭をとる」といえば「教える」ことになるのです。)
- ▽教具(教えるのにつかう道具のこと。)
- ▽宗教(宗は「本家」。「おおもと」。「おおもとになる教え」といういみのことばで、「神や仏の教え」のこと。)
- ▽仏教(仏とうやまわれる釈迦がひらいた宗教。「仏の教え」のこと。)